

第8回 みんなで語ろう！ ~いなむら市長とともに 車座集会~

<テーマ型 : 子育てについて>

と き	平成24年10月21日(日) 午前10時30分~12時00分
と ころ	尼崎市立すこやかプラザ 多目的ホール
出席者	参加者 27人、託児希望児 12人(予定は22人)、託児ボランティア 12人 関係者 市長ほか 16人 計 68人
1	<p>尼崎市の子育て支援について NPO法人子どものみらい尼崎 理事長 濱田 格子様のお話を聞く。 ・「子育て支援って何?」「子どもの命と育ちについて」などについて、パワーポイントによる説明。 ・すこやかプラザをはじめとし、つどいの広場などの子育て支援活動について説明。</p>
2	<p>「子育てについて」のテーマで市長との対話</p> <p><市長> 今日の参加者の皆さまで、幼稚園も保育所も通われていない小さなお子さまをお持ちの方はどれくらい来てくださっていますか(15人弱拳手)。子どもが幼稚園に通われている方はどのくらいいらっしゃいますか。子どもが保育所に通っているという方は? ありがとうございます。</p> <p>ちょうどいい具合に混ざっているかなと思いますけれども、先ほど濱田さんから体系的なことを話していただきましたが、小学校に行くまでというのは、まず子どもが小さくて家庭で子どもを見ているんだという、そういうところにどういうつながりを持たせていくのかということ。そのあとは、幼稚園に行く子どももいます。保育所に行く子どももいます。またその中には公立、私立、混ざっていますね。後ろに、たくさんの行政の関係者が見えているのも、関連の部署がこれだけたくさんあるからです。</p> <p>でも、子どもたちってというのは、家庭の事情に関わらず、みんな尼崎で育っていく子どもたちなので、私としては、幼稚園・保育所、公立・私立といった壁を取払って、尼崎市が小学校に入学する子どもたちに、どのような共通の理念や、問題意識、課題設定をもって、支援をしなければならぬということ、今まさに組織の枠を越えて検討をはじめているところです。今日は、いろいろな立場の皆さまから率直なご意見や、質問・疑問・不満を聞かせていただいて、ぜひ今後の参考にしたいと思い、また、市民の皆さまと一緒に取り組めたらいいなということで、「子育てについて」というテーマを設定させていただきました。</p> <p><市民> 今、期間雇用社員として在籍しています(正社員ではない)。子どもが生まれて産休を受けたのですが復帰が望めない。会社からは復帰は難しいと言われており、権利ばかり主張して、再雇用させていただきたいと主幹に無理強いをすると、後々溝が深まると言われています。私の雇用について違う上司に相談したところ、「私が君の直属の上司に指示をすることが出来ない」と言われ、厚生労働省の雇用機会均等室の人に相談しながら作戦を練っているところですが、できれば、雇う側にも、雇われる側にも、両方の意見を踏まえて、子育てしながら働ける環境をつくっていただきたいなと思っています。</p> <p><市長> この悩みをお持ちの方がたくさんおられると思います。尼崎市も病児保育も含め、働きながら子どもを育てやすいようにと進めています。職場はそれ以前の所でシャットアウトされているということですね。もちろん課題意識はありますが、今は相談していただいているのですね。トレピエなどに行っていますか。女性センターでも、就労の復帰とか、企業サイドから意見を聞いてほしいとか。貴重なご意見では、どういうことができれば、働き方を変えていってもらえることができるか、逆に、社会的にどういう支援が充実していれば、職場復帰がスムーズになるかということとか。企業の意見を聞くということは、ぜひ取り組んでいきたいと思っています。</p>

<市民> 子どもを市立幼稚園に通わせていて、私も市立幼稚園を出ました。

市長は、尼崎市の子育て支援はすごく良いと言われますが、幼稚園をお金がないという理由で廃止しようとしている。教育委員会も議案を幼稚園と高校と一緒に出すなど、保護者の意見に関係なく幼稚園の廃止を推し進め、保護者の意見は聞いてもらえない。「通えなくなる」、「危険になる」と言っても「案が決まってから考えます」、「教育の充実策をします」と明確な返事がない。「複数学級がいい」と言うことに対して、「では、複数学級の何がいいのか」と聞いたら「本に書かれている」という説明しかされない。保護者のほとんどが納得していないのに2年後に市立幼稚園の一部はなくなってしまう。お店ならお客さんが商品を買ってくれなかったら、会社がつぶれてしまうから、みんなの給料を下げるし、お客さんのためにどの程度何ができるかを考えてくれる。公務員は市民が反対しても、最終的には強行して進めてしまう。誰も子どもを守ってくれないのに、市長が、「子育て施策が充実しています」とおっしゃっても、私たちは同じ子育て世代の人たちに、「尼崎はいいところだよ」と勧める気がしない。教育委員会は18園の市立幼稚園の登園時間がバラバラだということも知らなかった。そんな人たちが園を集約して、充実した教育施策ができるとは保護者は誰も思いません。全く子どものことなんか考えていない。市長は子育てが充実していると言っていますが、保育所や幼稚園を奪っておいて、どういう意味で充実していると言われているのでしょうか。何一つ子どもを守るようなことをしてもらえていない。将来の子ども、まだ見えぬ子どものために、今の子どもに負担を強い、それで尼崎が発展すると思われませんか。

<市長> 今、生まれているか、来年、再来年に生まれてくるかにかかわらず、今の子どもたちはこれから社会を支えていく人たちです。私たちの社会は、これからさらに人口が減り、経済も昔みたいに右肩上がりにならないだろうとされています。市全体として、使えるお金がこれまでの成長時代と比べると、少なくなっている状況の中で、新しい課題に対応していかなければならないという時代に変化しています。

今、市立幼稚園に通っている方から、「市立幼稚園が良い」と評価いただいていることについては、教育委員会としても非常に励みになっています。市立幼稚園の教育をもっと充実し、課題を解消するために現状を見直し、市立幼稚園を集約しようとするもので、決して子どもを切り捨てようとするものではございません。

<市民> でも実際は通えないんですよ。

<市長> 保護者の方にとっては、当然、市立幼稚園を守ることが子どもを守ることだと感じておられるというお気持ちは非常によくわかります。ただ、今日もいろいろご紹介がありましたとおり、幼稚園も存在するだけではだめですよ。各年齢で複数学級にするということは、同年齢の子どもたちを複数の先生の眼で見るとのことなんです。それは例えば、ベテランの先生と若手の先生と一緒に、いろいろな悩みや、「難しいな、この子どもしたらいいだろうな」というような場面を相談し合い、また一緒に勉強し合うことにより、さらに厚みのある教育を子どもたちのために実践できるようになると思っています。現状のままで、それだけ人を増やせたらいいのですが、財政上、非常に難しい状態です。子どもたちの集団の規模を守り、スタッフの充実を図るために市立幼稚園を統合し、教育の充実を図ってまいりたいと思います。

<市民> 単学級がいいから市立幼稚園を選んでいる。誰も望んでいないのに、勝手に複数学級に増そうとしている。

<市長> 市立幼稚園は、単学級でスタートしていますが、単学級であり続けることを目的とはしていません。

<市民> 複数学級を希望するならば、私立の幼稚園を選びます。単学級での子育てをしたいから市立幼稚園を選んでいるんです。以前、市長がお話になったときにお金がないからと言われてから、教育委員会はお金がないから仕方がないと言いました。

<市長> お金がないからといいますが、限られた財源の中で、充実させていくためにはいろいろな方法を考えていかなければならないということです。

尼崎って人口が何人かご存知ですか。45万人。ピークのときは55万人ですからピーク時より10万人減少しているのです。その時と同じくらいの施設とか学校の数を、今後も維持したまま充実させるというのは到底難しいという中で、限られた財源の中で、というお話をさせていただいたのを、「お金がないから」という表現になっているのかもしれませんが。

今ある財源の中で、教育を充実させるために園数を集約させていただくものであるということをご理解いただきたいと申し上げていたのだと思います。保護者の方とのやりとりが十分でなかったという点について、ご不満に感じられたこともあると思いますが、教育委員会としても財政などの制約がある中で、いかに教育の中身を充実させていくかを考えた上で策定したものです。例えば、市立幼稚園には現在、養護の先生をすべての市立幼稚園に配置出来ていませんので、今後、園の数は少なくなります。養護の先生を必ず1園に1人配置する。また、幼稚園に通っている子どもたちだけではなく、これから幼稚園に入園しようとする子ども、保育所に行く子どもを育てている保護者が、気軽に子どもの成長や発達に関する相談をすることができる窓口を設け、地域や家庭教育を支援する機能をつくりあげてまいります。

これら充実策について、「実感できない」と感じるのとは当然のことだと思えます。そういうお声もいただきながら、新しい取組みについてご理解いただけるよう努めてまいりたいと思えます。納得いただけないこともあるかと思えますが、子どもとしては、今申し上げたようなことを子育て施策の一環として進めたいと考えています。後回しにするのではなく、今ある課題を見つめ直し、よりよい教育を子どもたちに提供できるよう進めてまいりますので、ご理解いただきたいと思えます。

この後、意見が出ると思いますが、お隣の西宮市では子どもの医療費の助成がものすごく充実しています。それに比べると尼崎市はまだ、西宮の制度までは追いついていません。それについては私も非常に強く感じています。

一方で、世帯合算で所得を計算するというところで、負担が増えたと思われるかもしれませんが、尼崎市では老人向けの福祉医療のうち兵庫県の制度に上乗せした尼崎市独自制度の部分を削減させていただいて、全額は無理でも、一部の財源を組み替えながら、子どもの医療費をもう少し充実させて、この7月から新しい制度でやり始めたところなのです。そういったすべての子どもの子育て支援というところにも、財源が必要となってきますので、全体のバランスの中で何とかやっけていこうという状態ですので、決して子育てに力を入れていないということではないので、ご理解いただきたいです。その子どもたちが小学校、中学校と上がっていく中で、小中学校の約半分の教室にクーラーがないといったことも色々ありまして、少しずつ改善に向けて頑張っているところです。

十分な答えではないかもしれませんが、すぐに市立幼稚園を全て廃止するものではありませんし、私立の幼稚園や保育所を含めて、お互いの強みを活かし、もっともっと交流して、子どもたちを市全体で育てたいと思えます。

<市民> 私の子どもも後々廃園になる幼稚園の園児です。説明会に参加して財政が苦しいこともわかりました。私たち家庭の財政が苦しいのだからということもあるとは思いますが、ただ、プログラムのメリット面に関しては、教育委員会の方々の説明では全く伝わってこなかったというのが一番の不満の原因だと思います。教育の専門の方からこういったことがあるので、こういう風に子どもの教育環境にしたほうが望ましいなどと具体例が全くありませんでした。徒歩30分圏内なら園児も通えるだろうということで、徒歩1.5キロ圏内に幼稚園を残していますが、直線で園児が幼稚園まで行けるというわけではありません。特に私は、1.5キロ圏内の円の一番外に住んでいます。まず歩いては通えません。自転車でもいい、バスでもいいという条件は出ていますが、それも「これから詰めていきます」というのでは、私たちが子どもを通わせるのにすごく不安が残ってしまう。これに関してもう少し丁寧に教えていただけると保護者の不安がなくなるのではないかと思います。

安全面に関して、「道路の整備は保護者の要請があれば対応します」と言われていますが、それでは遅いと思います。園児が通ってから、「ここは交通量が多いからガードレールをつけます」で

は遅い。1日や2日でガードレールは付けられるものではないですし、道路の舗装もできるわけではないと思います。プログラムを作る以上、そういったことも念頭において、目に見える、実感できる答えがないと不安が募って、現在通っている親からすれば、どうしても絶対反対となってしまう。でもこれから通う子どもの親もそうですが、恥ずかしい話私も、子どもを通わせてからこのプログラムの存在を知り、驚き戸惑っています。パブリックコメントをホームページで求められたとは思いますが、もう少し情報の周知をしてもらえれば、実りのある話し合いができたのではないかと私は残念に思っています。やはり子どもを安全に通わせて安全に帰ってくるというのは、例えば、その親が乳児を抱きながらだった場合は、毎日子どもを連れて帰ってくるだけでヘトヘトになってしまうと思います。市立幼稚園に通わせていて、こんなに幼稚園の送り迎えは大変なんだと改めて実感しています。ただ大変とは思いますが、しんどいとは思わないです。子どもと触れ合ったり、先生と一緒にすることがあり、とても充実しているからです。廃止となる幼稚園を残してほしいです。園が遠くなってしまうと登園に時間を割かなければなりません。そうなればフォローもほしいと思います。複数学級についても、教育委員会の人ではなくて専門家の方からの説明を何回かしていただけたらなと思っています。

<市長> 先ほどの方のご発言にもありましたが、私たちの説明の中で、かえって市民の方の不安を増進するような点があったことについては反省しなければいけないと思っています。今後しっかりと改善し、活かしていきたいと思っています。実は私、昨年このプログラムを発表したときに保護者の皆様との意見交換を開かせていただきましたが、その時も健診の時など子どもに関連ある行事で情報を発信してくれないか、市報の掲載場所はわかりにくいといろいろな意見を頂戴しました。そういったご意見もいただきながら情報をいかに皆さまと共有するのか、もっと、子育ての方に届く方法があるはずだというのが、従来からいただいているご意見でもありますので、しっかり受け止めたいと思います。通園対策については、教育委員会も十分検討すると思います。もう1つの教育の観点では、保護者の皆さまや担当者が、子どもの育ちについて知識を深めながら充実策を進めるために、複数学級の良さや必要性など専門家による説明は大変大事なことで、教育委員会とも協議をして、ぜひ実現させたいと思います。

<市民> 自治会長を務めており、子育てというものを私も孫5人おりますが、皆さんにはちょっとむとくことを言うかもしれませんが、私の頃は、嫁が子を小学校4年生になるまでは育てるという時代でした。子が生まれたからには、親は一生懸命育てなければならぬと思っています。私の時には、地域のおじいちゃんやおばあちゃんがあり、地域で面倒を見てくれましたからよかったのですが、今は地域が希薄になってしまって、地域の行事にもなかなか出てこないという。やはり、もっと今の若い人は教育に関して、いろんな面に関して、仕事以上のことをやってもらいたいと思うんですよ。ただ僕らは62年間必死に頑張ってきました。それが親であり保護者であります。70歳、80歳になっても子どもは子どもというような感じの親になってもらいたいです。僕らは今の親御さんは甘いと思っている。すこやかプラザとかNPOとかできて、そういう所に行って教えてもらう。そういうものより自分で努力しながら育てていく。最近はプライバシーとかの問題もありますが、親は子どもの部屋に入って、自分の娘、息子がどのような日常を送っているかを見るのも勉強だろうと思います。私は今孫のために妻と一緒に勉強しています。そういう勉強をしたいと思い、今回来させていただきました。「お父さん古いで」と言われるときもありますが、古いは古い、しんどいときはしんどいでいいと思います。子育ては、しっかりと子ども目線で頑張ってもらいたいと思います。私は補導員もしたことがあります。補導すると「わしの子どもは放っておいてくれ」とか「勝手にさしてくれ」という親御さんがまだまだおられます。やっぱり親は小学4年生までは、午前中だけのパートとかお仕事をみつけてもらって、子育てをしてもらいたいです。

<市長> 率直に申し上げますとそれでは生計が成り立たない時代となっております。働きながら子どもを育てている親としては、働いているか働いていないかで子育ての質を問われるというのは非常に反論がございます。働いているか働いていないに関わらず、いろんな悩みや課題を抱えながら、親御さんもみな頑張っています。最初の発表の中で、非常に大事なことを濱田さんがおっしゃって

<p>いましたが、子育て支援というのは親の代わりに何かやることではないと。親が親として、何か頑張れるようお父さん、お母さん問わず、親が頑張れるようにどういうサポートができるかというところに支援が必要だろうということが子育て支援だろうと思います。</p>
<p><市民> そこに、今の若い人は甘えてしまうのですよ。私だってそういうような感覚になります。</p>
<p><市長> だから、支援の中でも、代わりにやってあげるサービスではなくて一緒に学んでいこうというスタンスが大事だと、その部分は当然おっしゃるとおりだと思いますので、現場もそういう意識でやっていただいていると思います。ありがとうございます。あと、そういうちょっと怖いおっちゃん地域にいるということはすごい大事なことでして、今後ともよろしく願いたいします。</p>
<p><市民> 幼稚園に通っている子どもが2人います。幼稚園なのでそのまま遅い時間まで見てもらったりできるのですが、小学校に入学した場合、学童保育の場所が少なかったりすると家内が仕事を続けられないという状況になるのではないかなと。これは大きな希望ですが、そのままの小学校でそのままの先生がたとえば18時とか19時まで子どもを見てもらえるようなシステムを作っていたきたいと。</p>
<p><市長> 今はいわゆる学童保育という、児童ホームですね、学校の先生は業務があるので、別のスタッフがおりまして、3年生までです。</p>
<p><市民> あと場所も少ないです。全小学校にありますか。</p>
<p><市長> はい、全小学校にあります。</p>
<p><市民> その情報が、僕の集め方が悪かったのかもしれませんが、ホームページを探してもなかったので。それともう1つ、今すぐどうこうという話ではないですが、市長、尼崎市ってきれいな市だと思いますか。</p>
<p><市長> 私はそんなに思わないですけども、皆さまにはイメージ、「駅前がきれいじゃない」とかは言われますね。</p>
<p><市民> 僕は小中高とずっと尼崎です。今も尼崎に住んでいますが、阪神尼崎駅前、めちゃくちゃ汚いです。僕は職場が阪神尼崎ですが、よその町から来て、町の顔といえる駅に来て、「このタバコの吸殻は何や、このゴミは何や。」と思うんですよね。まず、きれいな町にして、それが子どもの健康につながるのではないかと考えていますので、例えば、タバコを全面禁煙の町にするとか。室内とか吸える場所では吸ったらいいのですが、ポイ捨てとかが非常に多いです。ゴミも1つ捨ててあるから2つ捨てる、というのが人間の考えですね。ゴミを捨てない町にするというのを目指していただきたいと思います。</p>
<p><市長> クリーンキャンペーンも毎年実施しておりまして、阪神尼崎はやりがいのある駅になってしましまして…。このキャンペーンをしている人たちは、自分が捨てる側にならないという信念をもって、作戦への参加者も募り、学校ぐるみで10万人クリーン作戦を実施していますけれども、路上喫煙の問題は健康の問題もありますので、兵庫県で、タバコも含めた条例ができて、尼崎市では課題という認識をしております。ご意見ありがとうございます。</p>
<p><市民> 私はこの近所に住んでおり、3歳の子どもがいますが、いずれ幼稚園・小学校にも行きますが、小学校が家の近くにあるのですが、校区が違って、道意線を越えたところに通うことになっています。家の目の前の道路を挟んだ向かいの人は、家から近い小学校に行くのですが、私側の方は遠い所に行くんです。先ほど幼稚園のときの話にもありましたが、道路事情の面で通わせるのが怖いですし、部活動で帰りが遅くなってしまった場合とか不安です。だから、学区のあり方は考えていただきたい。選挙がある場合はすぐ近くの学校で私たちも投票できるのですが、子ども達が通うのは遠い小学校なので、矛盾が生じているのではないかと考えて…、学区のあり方とかを臨機応変に対応できればなと思います。</p>
<p><市長> それはこの場で即答するのが難しいご意見ですが、やはり人口が急増した中で小学校ができたので、その時の人口の増加に対応した区割りをしたエリアもあるという様に聞いております。またいろいろな経緯、経過がありますので学校区の指定というのはなかなか大変なのですけれども、ちょっと臨機応変な対応ですとか、どこかで違う学校になるという線は発生してしまうので、</p>

その辺は大きな時代の変化の中で課題になってくる部分はあると思います。
<市長> 市内では、小学校も何箇所か統合に取り組んでいますが、実態的に住所をわざわざ変えてまで近い学校に通ってらっしゃるという。その辺の実態も含めて大きな宿題となってきますので、お声を受け止めました。
<市民> 病児保育についてですが、武庫之荘の病児保育ですけれども、ちょっと使いにくいなという点がありまして…。他の人に聞いてみると、前日か当日にしか予約ができなくてキャンセルができない、というやり方はちょっと利用しにくい。他の市では当日にもキャンセルOKですし、当日も朝8時までなので、ほんとに「今使いたい」という時に使えない状態となっています。数が少ないというのもあるかもしれないのですが、病児保育を充実していただけたらなと思います。
<市長> 尼崎の病児保育は現場も頑張ってください、私も利用してきた者の一人なのですが…。ただ、尼崎はたくさん利用してくださってしまっていて、インフルエンザが流行った時とか、他の方がキャンセル待ちをしている中でとりあえず保険のために、明日どうなるかわからないけれども予約しておいて、当日キャンセルすればいいや、という運用に課題が出てきたので、あのようなルールになっているそうです。使いやすさで言いましたらそういう課題もあるかもしれませんが、一方で一人でも多くの方が効率よく保育を活用できるためにという側面もありますので、病児保育はもう1箇所作りたいたいという思いはあるんですけども、ご理解いただく面と頑張っていく面と両方でしたいと思います。
<市民> 武庫之荘に転勤で引っ越してきたのですが、以前は東京にいたので、まず中学校の給食がないというのが（義務教育だったらあると思っていたので）ちょっとそれがびっくりしたことと、医療費が全部、入院中の食事まで出たり、通院も子どもは無料っていうのがあるので、こちらに来て所得制限があるのですね。この2つが引越してきてものすごくびっくりしたことです。これからあと何年お世話になるかわからないですけども、全ての子ども達が平等に給食や医療が受けられるような世の中になってほしいなと思います。
<市長> 首都圏だけは別格なので、それだけはちょっと。ただ、他都市と連携して取り組んでいきたいと思いますので、頑張っていきます。
<市民> 医療費と給食費のことですけども、今、署名運動の活動をしています。私も小学校4年生の息子、小学校2年生の娘、幼稚園年少の息子3人を子育てしています。主人の仕事の都合で尼崎に住むことになりまして、実際にしたら給食費もそうですけど、給食を完全実施しているということになれば西宮というイメージがありまして、西宮へ引越ししようかなと思って、息子が2年生のときに考えてしまって…。病気をした時とかに大丈夫かなと思いマンションを選ぶ時に西宮で探していたのですが、結局主人の仕事関係で、一番は子どもも大事だけれど、稼いでくれる主人の仕事を第1に取ってしまって、今は塚口本町に住んでいます。周りのお母さん方に聞いてみると、医療費、給食の完全実施をとにかく尼崎にしてほしい。転勤とかで他都市から来られた人に、武庫之荘はイメージが良い、ずっと住みたいと言いながら転勤で他都市に戻られる方もいます。やはり聞いていて、西宮は給食があるから引越しを考えているという方が、小学校の低学年に引越しされる方が実際にいるので、是非とも尼崎に残ってよと思うんだけど、医療費、給食完全実施があると親も楽できるし、栄養面でも充実している。是非とも尼崎に残ってもらうために、医療費と給食の完全実施をお願いします。塚口、武庫之荘で署名活動をしていてそういう声は多いです。それと学校区のこと、私の子どもは塚口本町にいますが、塚口中学校に行くのに、男の子で徒歩で40分、女の子で50分かかるといっても心配です。
<市長> それはもっと近くの中学校があるのではないのですか。
<市民> あるんですかね。今中学校1年生を持っている親御さんから聞くと、そうだったので。小学校は近くだったので、中学校は遠くなったという声も聞くので。
<市長> 小学校と同じ数だけ中学校を作るのはできないのですので、尼崎は学校の数は少なくないと思いますけれども。
<市民> 結局、私学にお受験する方が多いのです。
<市長> 中学校もだいたい小規模化してしまっていて私たちも悩ましいのですが、決して学校の数が遠距離

<p>になるほど少ないというわけではないと思います。ただ、給食の件は、非常に多く声をいただいておりますし、みんなと食べれるというのは本当におっしゃるとおりでして、今大阪のようにお弁当事業からやろうとしております。</p>
<p><市民> 大阪市内が来年度実施ですかね。</p>
<p><市長> 大阪は今、選択性のお弁当方式を給食として実施しています。お弁当方式です。選択性だとなかなか利用が広がらないのは承知しておりますけれども、まずは段階を踏んで、財政的な裏づけも必要ですので段階的に取り組んでおります。</p>
<p><市民> 自分自身富山県から、西宮、神戸と渡って行って、尼崎で子どもがいますけれども、皆さまの活発な意見を聞いて、地域にこういう方々がおられるのはありがたいことだと改めて感じています。自分は男女共同参画推進の審議員もしております。実は先日平成23年度の社会生活基本調査ということで、パパのことなのですが、男性の育児時間ということで兵庫県が全都道府県中41位、1日で28分でした。全国平均は39分です。実は大阪も41位で28分、京都は46位で26分、和歌山47分、関西が少ない数値となっております。世の中イクメンといわれておまして、自分自身すこやかプラザの広場の方で何回か参加させていただきまして、すごい取り組みだなという風に感じております。で、男の人のみというふうに言われたと思うのですけれども、いろんな男性のパパが、実際に育児に参加したいという思いはあっても、お子様の年齢のタイミングとか内容って実に様々だと感じています。その中で実際に乳幼児の時期の父親支援というのは、とても多く取り組まれているというように感じますが、例えば小学校に上がったときに、学童保育以外の父親と一緒に参加できる事業とか、中高生には中高生の悩みがあると思います。その中で父親の取り組み、子育て支援は0歳から18歳までですので、そういった部分でまた考えていただきたいなと思っています。以前、平成17年まで児童館が尼崎にはありましたが、もともと児童館の管轄は0歳から18歳までだったと思います。</p> <p>それを廃止ということで、学校の内外での取り組みをされておりますけれども、その中で抜けている部分といいますか、薄くなってしまっている部分があるのではないかと思います。</p>
<p><市長> 尼崎の全小学校に、放課後に学童保育とは別に6年生までの居場所作りがあるのですけれども、こどもクラブというものを各小学校単位で作っておりますので、そこにお父さんたちがもっと出てきてもらえるような仕組みというのが、できるかなという感じがします。</p>
<p><市民> 私の子どもは生後4ヶ月ですが、こども園というのが最近広がってきておまして、こども園は尼崎市内に6箇所だと思うのですけれども、市長がこども園についてはどうお考えで、行政として増やしていくのか、何か次の取り組みについてお伺いしたいなということ。あともう1点、私は初めて出産して、最初の1ヶ月がものすごい大変だと思まして、1ヶ月超えたら、リズムもつかめてきて外とのつながりとかを考えられるようになってきたのですが、本当に最初の1ヶ月がとても大変です。最近では韓国では産後院というものがあることを知りすごいいいなって感じました。まだ、日本では産後院というのはないと思いますが、尼崎市のいいPRにもなるかなと思まして、多分民間でやらなければならないことですが、そういうところに助成という形でできたらいいなと。</p>
<p><市長> 産後院ですか。それは病院ではなくて。</p>
<p><市民> 出産後、1ヶ月とかそれ以上の期間、ずっと宿泊して、お母さんと赤ちゃんがその施設に宿泊して、母乳のこととか、産後の体形戻しのこととか、一緒にママ友ができたりとかある施設があって、それで乗り越えられたというお話を聞いたことがあります。それが日本にはまだなくて、私はその産後院を日本で普及させるのにやれたらいいなと思うんですけど、尼崎市に日本発の産後院ができたらいいなと思っているので。</p>
<p><市長> 今、こんにちは赤ちゃん事業も紹介してもらいましたが、その中でちょっとお母さんしんどそうだなとなったら今度はファミリーサポートセンターという訪問型の登録会員に1時間ごとにボランティアに頼む制度がありまして、そちらのほうでお手伝いに行ってもらったりということにはしておりますけれども、それも福祉的なことと総合的になっていないとかいろんな課題もありまして、ちょっとしんどそうかなというご家庭があったら、支援が届くようにということを書いて</p>

いるのですが、もうちょっと気軽に集まれる、つどいの広場がその担い役になっているのかなと、宿泊まではニーズも含めてどうかなという感じがしますけれども。

<市民> ある程度、大きくなってからの対象が多いと思うんですね。生まれてから1ヶ月で安心して預けられるところはどこの市にもないと思うので、新生児とママと一緒に居れる場所があればいいなと思います。

<市長> 先ほども話しましたが、0歳のニーズが非常に高まっているということですね。

あと、こども園のことですけれども、私立幼稚園の何箇所かが前と後ろに預かりをくっつける形で保育との融合を図っていくということをやっています。国の制度においても総合子ども園を作っていくということにもならず、尼崎市の場合は冒頭にも申し上げましたが、官民幼保、制度的にはすぐに同じ名前にはならないのですが、それぞれのいいところをそれぞれが切磋琢磨をしていて、どこに行っていたとしても同じサービスを受けられるような形に近づけていきたいと思っています。こども園については、皆さまのところにニーズ調査というものがいきます。こども園に向けて、私は家庭に居ながら、短時間預けたいのか長時間預けたいのかですね。あと、どういうことを預かっている施設に期待するかとか、いろんなことを調査も行くと思いますので、皆さまご意見お待ちしております。

それではお時間となりまして、ご発言できなかったという方もいらっしゃるかと思います。アンケート等に書いていただけましたら、私も目を通しますし、こちらのほうにもおじゃまをして、皆さまの意見を聞きながら、就学前、小学校、中学校と子どもの育ちは続いていきますので、また皆さまにはお力添え、お付き合いをいただければと思っています。

本日は本当にありがとうございました。